

諏訪の池ビジターセンター

3 階建ての諏訪の池ビジターセンターでは、地底深くから地上のすべて、そして頭上の星まで、島原半島の豊かな世界を発見できる。ビジターセンターは、子どもたちに地域の自然科学や自然史について教えるために建てられた。

何万年も前に、この地域は噴火により溶岩で覆われていた。時を経て、諏訪の池断層による地震で地面が別れ、南北の断崖となる割れ目ができた。人々は半島に住み着き肥沃な土壌で多種の作物を育てることができた。江戸時代（1603 年 -1867 年）には地元の農民たちが境川に甲谷ダムを建て、諏訪の池を作った。

ビジターセンターの 1 階の中央には、周辺の森、池、農場の三次元モデルがある。地元の人々が自然とバランスを取りながらこの地域で田畑を発展させてきた様子が学べる。センターの中には、地域の鳥についての展示物が多数あり、ボタンを押したり引き出しを開けたりして鳥たちの鳴き声を聞き、間近に様子を見ることができる。顕微鏡で見るプランクトンの世界までの水生生態系もまた詳細にモデル化されている。

2 階では、天体世界を学べる。星や天体をどのように見つけ、観察し、楽しめるかというヒントが図で示されている。体験型展示により、地球の自転により四季が生じる様子や月が満ち欠けする理由も学べる。3 階にある展望台では、毎週末、一般公開の観覧イベントを開催している。